

事例3

単元 身近なことについて、写真や図表、グラフ等を用いて比較しながら説明する (第2学年 全8時間)	英語の目標 「書くこと」イ
--	-------------------------

単元を通して育成を目指す資質・能力 語や文法事項等を理解して正しく書く力	学習評価のキーワード 「書くこと」における「知識・技能」の評価
--	---

※本事例では、令和2年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果より、「語や文法事項等を理解して正しく書く力」に課題が見られたことを踏まえて、「英語の目標」「単元を通して育成を目指す資質・能力」「学習評価のキーワード」を設定しています。

1 単元の目標と評価規準

(1) 目標

身近なことについて効果的に説明するために、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある内容を話したり文章を書いたりすることができる。

(2) 評価規準（「書くこと」の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 比較表現の特徴やきまりを理解している。 身近なことについて、比較表現などの簡単な語句や文を用いて書く技能を身に付けている。 	身近なことについて効果的に説明するために、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある文章を書いている。	身近なことについて効果的に説明するために、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある文章を書こうとしている。

※ここでは、「書くこと」についての評価規準を示していますが、実際の指導に当たっては、「話すこと [発表]」などの他の領域の評価規準を設定することも考えられます。

2 指導と評価の計画（全8時間）

時間	ねらい(■), 言語活動等(丸数字)	知	思	態	[評価方法]
1	■単元の目標を理解する。 ①上級生が身近なことについて効果的に説明しているモデル動画を見る。 ②自己目標を設定する。				<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 本時では、[指導に生かす評価]を行います。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 「努力を要する」状況(c)の生徒への手立て(例) ・個別にやり取りし、比較表現の特徴への気づきを促す(言語活動等⑤)。 </div>
	■身近なことを比較し、ペアで説明し合う。 ③Teacher talk(「好きな映画」についてクラスで調査した結果)を聞く。 ④「好きな映画」について、比較表現を用いてペアで説明し合う。 ⑤教師と生徒がやり取りを行い、比較表現の特徴に気付く。 ⑥「好きな映画」について、比較表現を用いて再度ペアで説明し合う。				
2	■身近なことについて比較しながら正しく説明する。 ①前時に行った「好きな映画」について、教師とやり取りを行う。 ②Teacher talk(「好きな芸能人」についてクラスで調査した結果)を聞く。 ③「好きな芸能人」について、比較表現を用いてペアで説明し合う。 ④教師とやり取りを行いながら、比較表現の特徴やきまりに気付く。 ⑤「好きな芸能人」について、比較表現を用いて再度ペアで説明し合う。 ⑥ペアで説明し合ったことを書く。 ⑦教科書 Part1 の内容理解を通して、比較表現の特徴やきまりに気づき、理解する。				<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 本時では、[指導に生かす評価]を行います。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 「努力を要する」状況(c)の生徒への手立て(例) ・個別にやり取りし、比較表現の特徴やきまりへの気づきを促す(言語活動等④)。 </div>

3	<p>■身近なことについて比較しながら正しく説明する。</p> <p>①Teacher talk（「好きな食べ物」についてクラスで調査した結果）を聞く。</p> <p>②「好きな食べ物」について、比較表現を用いてペアで説明し合う。</p> <p>③教師とやり取りを行いながら、比較表現の特徴やきまりに気付く。</p> <p>④「好きな食べ物」について、比較表現を用いて再度ペアで説明し合う。</p> <p>⑤ペアで説明し合ったことを書く。</p> <p>⑥教科書 Part2 の内容理解を通して、比較表現の特徴やきまりに気付き、理解する。</p>	<p>本時では、[指導に生かす評価]を行います。</p> <p>「努力を要する」状況(c)の生徒への手立て(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別にやり取りし、比較表現の特徴やきまりへの気付きを促す(言語活動等③)。
4 本時	<p>■身近なことについて比較しながら正しく説明する。</p> <p>①Teacher talk（「一番好きな教科」についてクラスで調査した結果）を聞く。</p> <p>②「一番好きな教科」について、比較表現を用いてペアで説明し合う。</p> <p>③教師とやり取りを行いながら、比較表現の特徴やきまりに気付く。</p> <p>④「一番好きな教科」について、比較表現を用いて再度ペアで説明し合う。</p> <p>⑤ペアで説明し合ったことを書く。</p> <p>⑥教科書 Part3 の内容理解を通して、比較表現の特徴やきまりに気付き、理解する。</p>	<p>本時では、[指導に生かす評価]を行います。</p> <p>「努力を要する」状況(c)の生徒への手立て(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別にやり取りし、比較表現の特徴やきまりへの気付きを促す(言語活動等③)。
5	<p>■身近なことについて比較しながら正しく説明する。</p> <p>①Teacher talk（「好きなテレビ番組」についてクラスで調査した結果）を聞く。</p> <p>②「好きなテレビ番組」について、比較表現を用いてペアで説明し合う。</p> <p>③教師とやり取りを行いながら、比較表現の特徴やきまりに気付く。</p> <p>④「好きなテレビ番組」について、比較表現を用いて再度ペアで説明し合う。</p> <p>⑤ペアで説明し合ったことを書く。</p> <p>⑥教科書 Part4 の内容理解を通して、原級を用いた比較表現の特徴やきまりに気付き、理解する。</p>	<p>本時では、[指導に生かす評価]を行います。</p> <p>「努力を要する」状況(c)の生徒への手立て(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別にやり取りし、比較表現の特徴やきまりへの気付きを促す(言語活動等③)。
6	<p>■身近なことについてクラスで調査した結果を正しく説明する(ポスター作成)。</p> <p>①身近なことについて効果的に説明するために、クラスで調査した結果を基にポスターを作成することを確認する。</p> <p>②調査する身近なトピックを決定し、調査のインタビューを行う。</p> <p>③インタビューで得た情報をワークシートに整理する。</p> <p>④インタビュー結果を基にポスターを作成する。</p>	<p>本時では、[指導に生かす評価]を行います。</p> <p>「努力を要する」状況(c)の生徒への手立て(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターの型を提示し、それを基に作成するよう促す(言語活動等④)。

7	<p>■作成したポスターを用いて、身近なことについてクラスで調査した結果を説明する。</p> <p>①ポスターを用いて、グループ内で発表し、その様子をタブレットで撮影する。</p> <p>②撮影した動画を見ながら、ポスターや発表についてグループで意見交換を行う。</p> <p>③②で出された意見を基に、ポスターと発表の修正を行う。</p> <p>④グループを替えて、再度発表する。</p>	<p>本時では、[指導に生かす評価]を行います。</p> <p>「努力を要する」状況(c)の生徒への手立て(例) ・意見交換の視点を提示する(言語活動等②)。</p>			
8	<p>■作成したポスターを用いて、身近なことについてクラスで調査した結果を説明する。</p> <p>①身近なことについて効果的に説明するために、作成したポスターを用いて発表することを確認する。</p> <p>②作成したポスターを用いて、身近なことについてクラスで調査した結果を発表する。</p> <p>③友達の発表を聞き、コメントシートに記入する。</p> <p>④英語使用の正確さ(言語面)と表現内容の適切さ(内容面)から単元の学習を振り返る。</p>	<p>本時では、[指導に生かす評価]を行います。</p> <p>「努力を要する」状況(c)の生徒への手立て(例) ・振り返りの視点を提示する(言語活動等④)。</p>			
後日	パフォーマンステスト「話すこと[発表]」	○	○	○	[発表]
後日	ペーパーテスト(☞p. 8)「書くこと」	○			[定期テスト]

※第1時から第8時では、**[記録に残す評価]**は行いませんが、毎時間のねらいに即して生徒の活動の状況を把握し、指導に生かします**[指導に生かす評価]**。**[記録に残す評価]**は、後日のパフォーマンステスト[発表]及びペーパーテスト[定期テスト]において行います。

※ここでは、単元を通して育成を目指す資質・能力が「語や文法事項等を理解して正しく書く力」であることから、英語使用の正確さ(言語面)の指導に重点を置いて示しています。

3 本時[第4時]

(1) 本時のねらい

身近なことについて比較しながら正しく説明する。

(2) 本時の展開

言語活動等	教師の指導のポイント
①Teacher talk（「一番好きな教科」についてクラスで調査した結果）を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が比較表現の英文にできる限り多く触れることができるようにする。 比較表現の英文に十分に慣れ親しむことができるよう、既習事項を用いながら Interactive Teacher Talk を行う。
②「一番好きな教科」について、比較表現を用いてペアで説明し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導を行い、生徒の発話内容や使用している表現を把握する。
③教師とのやり取りを行いながら、比較表現の特徴やきまりに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> 文法事項の特徴やきまりに気付くことができるよう、生徒とやり取りした英文を板書し、視覚化する（☞p. 6 資料2）。 生徒の気付きを生かしながら、文法事項のポイントとしてまとめる。
④「一番好きな教科」について、比較表現を用いて再度ペアで説明し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導を行い、英語使用の正確さ（言語面）と表現内容の適切さ（内容面）から声掛けを行う。 ペア活動後、数名の生徒の発表を聞き、文法事項の特徴やきまりを踏まえて説明しているか確認する。
⑤ペアで説明し合ったことを書く。	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導を行い、英語使用の正確さ（言語面）と表現内容の適切さ（内容面）から確認を行う（☞p. 7 資料3，資料4）。
⑥教科書 Part3 の内容理解を通して、比較表現の特徴やきまりに気付き、理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書本文において比較表現が用いられている部分に下線を引くよう指示し、生徒自身が文法事項の特徴やきまりに着目できるようにする。

4 本事例における指導の工夫等

ここでは、本事例における「語や文法事項等を理解して正しく書く力」を身に付けさせるための指導の工夫等を紹介します。

(1) 指導の進め方

英語使用の正確さを高めるためには、単元や単位時間の授業において、特定の言語材料を繰り返し用いる場を設定し、継続して言語面からの指導を行うことが大切です（資料1）。

※ここでは、単元を通して育成を目指す資質・能力が「語や文法事項等を理解して正しく書く力」であることから、英語使用の正確さ（言語面）からの指導に特化して示しています。実際は、英語使用の正確さ（言語面）と表現内容の適切さ（内容面）から指導を行っています。

時間	ねらい(■), 言語活動等(丸数字)
3	<p>■身近なことについて比較しながら正しく説明する。</p> <p>①Teacher talk（「好きな食べ物」についてクラスで調査した結果）を聞く。 ②「好きな食べ物」について、比較表現を用いてペアで説明し合う。 ③教師とやり取りを行いながら、比較表現の特徴やきまりに気付く。 ④「好きな食べ物」について、比較表現を用いて再度ペアで説明し合う。 ⑤ペアで説明し合ったことを書く。 ⑥教科書 Part2 の内容理解を通して、比較表現の特徴やきまりに気付き、理解する。</p>
4	<p>■身近なことについて比較しながら正しく説明する。</p> <p>①Teacher talk（「一番好きな教科」についてクラスで調査した結果）を聞く。 ②「一番好きな教科」について、比較表現を用いてペアで説明し合う。 ③教師とやり取りを行いながら、比較表現の特徴やきまりに気付く。 ④「一番好きな教科」について、比較表現を用いて再度ペアで説明し合う。 ⑤ペアで説明し合ったことを書く。 ⑥教科書 Part3 の内容理解を通して、比較表現の特徴やきまりに気付き、理解する。</p>
5	<p>■身近なことについて比較しながら正しく説明する。</p> <p>①Teacher talk（「好きなテレビ番組」についてクラスで調査した結果）を聞く。 ②「好きなテレビ番組」について、比較表現を用いてペアで説明し合う。 ③教師とやり取りを行いながら、比較表現の特徴やきまりに気付く。 ④「好きなテレビ番組」について、比較表現を用いて再度ペアで説明し合う。 ⑤ペアで説明し合ったことを書く。 ⑥教科書 Part4 の内容理解を通して、原級を用いた比較表現の特徴やきまりに気付き、理解する。</p>
後日	ペーパーテスト（p. 8）「書くこと」

単元における指導の進め方

単元終末の「身近なことについてクラスで調査した結果を説明する言語活動」に向けて、毎時間繰り返し言語活動を設定しています（緑の網掛け）。英語使用の正確さ（言語面）から継続して指導を行い、「語や文法事項等を理解して正しく書く力」を高めていきます。

単位時間の授業における指導の進め方

単位時間の授業においても、言語活動と指導を繰り返し、「語や文法事項等を理解して正しく書く力」を高めていきます（ピンクの枠囲み）。

「語や文法事項等を理解して正しく書く力」が身に付いたか確認するために、単元末や後日に、学んだことを再度活用する場面を設定します（青の網掛け）。

【資料1 指導の進め方】

(2) 生徒の気づきを促す板書の工夫

本時の言語活動等③「教師とのやり取りを行いながら、比較表現の特徴やきまりに気付く」における生徒の気づきを促す板書例を示します（資料2）。文法事項を指導する際は、教師が一方向的に説明するのではなく、その特徴やきまりに生徒が気付くよう工夫することが大切です。また、生徒の気づきを生かしながら説明することも大切です。



資料2は、比較級 better 及び最上級 best を用いた文の特徴やきまりへの気づきを促す板書例です。

まずは、教師が生徒と※やり取りをして、多くの例文を引き出します。

その後、やり取りした英文を基に、比較級 better 及び最上級 best を使用していない文と使用している文を左右に並べて板書します。

※特定の言語材料を取り扱う際の生徒とのやり取りについては、事例2 p.5を御参照ください。

Today's Goal : Let's talk about your favorite subject.

Today's schedule 1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____ 6 _____	Taro likes math. Hana likes Japanese. Ken likes P.E. Sakura likes English. Sora likes social studies. Emi likes music.	Taro likes math better than English. Hana likes Japanese better than math. Ken likes P.E. better than science. Sakura likes English the best . Sora likes social studies the best . Emi likes music the best of all subjects.
--	---	--

Point

- ・「…より～のほうが好き」と表現するときは、[like ~ better than …]の形を使います。
- ・「～が一番好き」と表現するときは、[like ~ the best (of all)]の形を使います。



【資料2 生徒の気づきを促す板書例】

(3) 机間指導の工夫

本時の言語活動等⑤「ペアで説明し合ったことを書く」における机間指導の具体例（資料3）を示します。机間指導において、生徒の誤りを添削する際は、生徒自身が誤りに気付いて修正できるよう工夫することが大切です。また、誤りの修正については、過度に正確さを求めすぎず、長いスパンで少しずつ正確さを高めようとする指導観をもって指導に当たることが大切です。

※ここでは、単元を通して育成を目指す資質・能力が「語や文法事項等を理解して正しく書く力」であることから、英語使用の正確さ（言語面）からの指導に特化して示しています。実際は、英語使用の正確さ（言語面）と表現内容の適切さ（内容面）から指導を行っています。

《1巡目》クラス全体を回り、誤りのある英文を書いている生徒に対して以下のような指導を行います。

- ・生徒の誤りに赤線を引く。
- ・「語順」や「つづり」のように誤りの種類だけを生徒に示す。

例1) Taro likes math bettar than English.

つづり

例2) Ken like P.E. better than science.

動詞の活用

例3) Sakura likes the best English.

語順

例4) Ken likes P.E. better science.

欠落

《2巡目》1巡目で誤りのある英文を書いていた生徒を中心に回り、以下のような指導を行います。

- ・正しい文に修正できているか確認する。
- ・修正ができていない場合は、ペアやグループで確認する場を設定する。

《その後》机間指導において把握した生徒の学習状況を基に、以下のような指導を行います。

- ・多く見られた誤りを全体でシェアリングする。
- ・生徒が用いていた参考となる表現を全体でシェアリングする。

【資料3 机間指導の具体例】



意図的な机間指導が大切です。漠然と生徒の筆記を確認するのではなく、何を見るのか、どの生徒に手立てが必要かなど、明確な視点をもって机間指導を行きましょう。

※誤りの修正については、[事例1](#)p.7、[事例2](#)pp.6-7、[事例4](#)p.9も併せて御参照ください。

5 評価問題

単元の指導を通して、育成を目指す資質・能力が身に付いたのかテストする
必要があります。ここでは、そのための評価問題や採点の基準の例などを示します。



(1) 後日のペーパーテスト（「書くこと」）

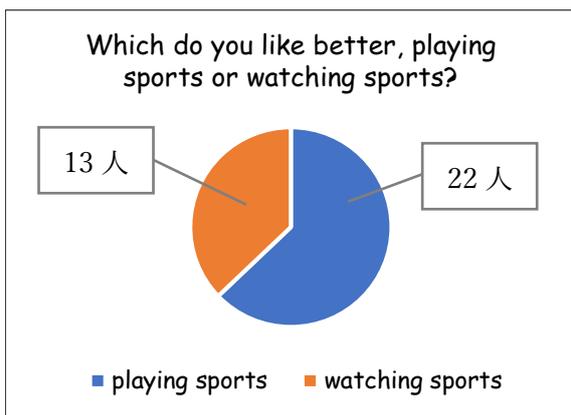
定期テストにおいて、「語や文法事項等を理解して正しく書く力」を見取るために、特定の言語材料（比較表現）を使用して解答する評価問題を出題しています（資料5）。「知識・技能」の評価問題です。

【指示文】

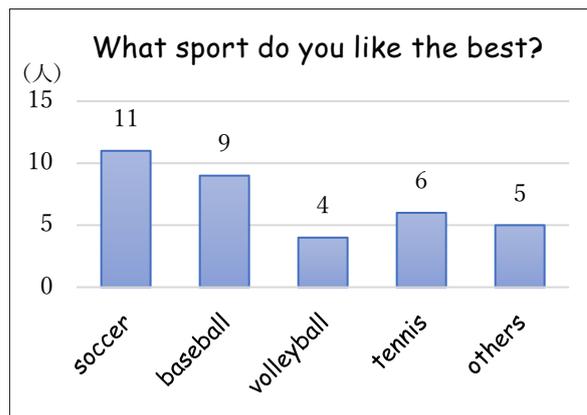
あなたは、“Do you like sports?”というトピックでクラスで調査を行い、その結果について記事を書くことになりました。次の【グラフ(ア)】と【グラフ(イ)】について説明する文をそれぞれ一文書きなさい。

【グラフ】

(ア)



(イ)



【資料5 評価問題】

① 採点の基準の例

(ア)	1	<p>グラフに基づいて、比較級を用いた肯定文を正確に書いているもの</p> <p>【正答例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Twenty-two students like playing sports better than watching sports. 	2点
	2	<p>グラフに基づいて、比較級を用いた肯定文を書いているが、大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるもの</p> <p>【準正答例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Twenty-two students like playing sports better than watching sports_ (ピリオドなし) ・ <u>twenty-two</u> students like playing sports better than watching sports. (大文字・小文字の書き分け) ・ 22 students like <u>pleying</u> sports better than watching sports. (特定の言語材料以外のつづりの誤り) ・ 22 <u>student</u> like playing sports better than watching sports. (複数形の誤り) 	1点
	3	<p>比較級を用いた肯定文の特徴やきまりを理解せず正確に書いていないもの</p> <p>【誤答例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Twenty-two students like playing sports better ___ watching sports. (than の欠落) ・ Twenty-two students like playing sports <u>bettar</u> than watching sports. (特定の言語材料のつづりの誤り) ・ 22 students <u>are</u> playing sports better than watching sports. (動詞の誤用) 	0点

(イ)	1	<p>グラフに基づいて、最上級や比較級の肯定文を正確に書いているもの</p> <p>【正答例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Eleven students like soccer the best. ・ 11 students like soccer better than any other sports. 	2点
	2	<p>グラフに基づいて、最上級や比較級の肯定文を書いているが、大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるもの</p> <p>【準正答例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Eleven students like soccer the best_ (ピリオドなし) ・ <u>eleven</u> students like soccer the best. (大文字・小文字の書き分け) ・ 11 students like soccer better than any <u>ather</u> sports. (特定の言語材料以外のつづりの誤り) ・ 11 <u>student</u> like soccer the best. (複数形の誤り) 	1点

3	最上級や比較級の肯定文の特徴やきまりを理解せず正確に書いていないもの 【誤答例】 ・ Eleven students like soccer the <u>besut</u> . (特定の言語材料のつづりの誤り) ・ Eleven students <u>soccer like</u> better than any other sports. (語順の誤り) ・ 11 students ___ soccer the best. (動詞の欠落)	0 点
---	---	--------

② 評価結果の例

定期テストにおいて、上記の問題を出題した場合、合計点により、当該テストの結果を以下のように評価することが考えられます。

	「知識・技能」の評価結果
合計点が3点, 4点の場合	A
合計点が1点, 2点の場合	B
合計点が0点場合	C

※ここでは例として、合計点による評価を示していますが、正答数によって評価をすることも考えられます。